



Japan Society of Bioscience,
Biotechnology, and Agrochemistry

2013.8

会告

カレンダー・・・K-1
お知らせ・・・K-3
支部だより・・・K-5

CALENDAR カレンダー

会
告

期 日	講演・会合等名称(会場)《共催等》, 太字=本会関連
2013年(平成25年)	
8/1~2 (木~金)	日本ゾルゲル学会第11回討論会(広島大)《協賛》
8/1~2 (木~金)	千里ライフサイエンス振興財団平成25年度技術講習会(阪大)
8/5~7 (月~水)	第32回日本糖質学会年会(大阪)《共催》
8/8 (木)	FCCAセミナー/FCCA グライコサイエンス若手フォーラム2013(阪大)《後援》
8/10 (土)	平成25年度日本農芸化学会北海道支部夏期シンポジウム「北の作物をはぐくむ」(旭川)
8/19~21 (月~水)	第3回高校生バイオサミットin鶴岡(鶴岡)《後援》
8/23 (金)	H25年度第2回油化学セミナー「サビにくい体にする抗酸化食品の健康調節機能」(弘前大)《協賛》
8/30 (金)	第20回旬の技術・見学講演会「植物工場ビジネスの現在と未来」(千葉大)《協賛》
8/31 (土)	向山アルドール反応40周年記念シンポジウム(東京)《後援》
9/2 (月)	食品酵素化学研究会第13回学術講演会(阪府大)
9/4~6 (水~金)	JASIS2013(幕張)《後援》
9/5~6 (木~金)	日本農芸化学会関西・中四国・西日本支部および日本ビタミン学会近畿・中国四国・九州沖縄地区合同大会(2013年度合同広島大会)(県広島大)
9/7 (土)	日本農芸化学会中四国支部第23回市民フォーラム「食と農を科学するー日本発の農芸化学・ビタミン学研究ー」(広島)
9/10~12 (火~木)	第61回日本質量分析総合討論会(つくば)《共催》
9/10~12 (火~木)	2013年度日本冷凍空調学会年次大会(東海大)《協賛》
9/12 (木)	日本学術振興会地球環境・食糧・資源のための植物バイオ第160委員会 第6回研究会「メタボロン:植物二次代謝のダイナミクス」(北大)
9/12~13 (木~金)	第30回シクロデキストリンシンポジウム(熊本)《共催》
9/12~14 (木~土)	第51回粉体に関する討論会(松江)《協賛》
9/14~16 (土~月)	第22回日本バイオイメージング学会学術集会(東大)《協賛》
9/14~18 (土~水)	第12回ヒトプロテオーム機構国際会議(HUPO2013)(横浜)《後援》
9/18~20 (水~金)	第55回天然有機化合物討論会(同志社大)《共催》
9/18~20 (水~金)	第64回コロイドおよび界面化学討論会(名工大)《協賛》
9/19~20 (木~金)	生命分子機能研究会2013学術集会「生命分子・ペプチド創薬の医療へのインパクト」(長浜バイオ大)《協賛》
9/20 (金)	第63回東レ科学講演会(東京)《後援》
9/20 (金)	第9回アスタキサンチン研究会(東京)
9/22~26 (日~木)	Enzyme Engineering XXII(富山)《共催》
9/23~27 (月~金)	第15回全反射蛍光X線分析法(TXRF2013)および第49回X線分析討論会合同会議(阪市大)《協賛》
9/24 (火)	平成25年度文部科学省創薬等支援技術基盤プラットフォーム公開シンポジウム(東京)《後援》
9/24~27 (火~金)	13th International Conference on the Chemistry of Antibiotics and Other Bioactive Compounds (ICCA-13)(山梨)《共催》
9/25~26 (水~木)	第11回高付加価値食品開発のためのフォーラム(裾野)《協賛》
9/25~27 (水~金)	第61回レオロジー討論会(山形大)《協賛》
9/28 (土)	ノーベル賞受賞者講演会ー理系学生(学部・大学院・博士研究員)対象:根岸英一博士(東京)《協賛》
9/28 (土)	プロテイン・アイランド・松山 国際シンポジウム2013(愛媛大)《後援》

期 日	講演・会合等名称（会場）、《共催等》、太字＝本会関連
10/3～4（木～金）	第36回フッ素化学討論会（つくば）《共催》
10/4～8（金～火）	第10回アジア・太平洋キッチン・キトサン国際シンポジウム並びに第27回キッチン・キトサンシンポジウム（米子）《協賛》
10/5～7（土～月）	第57回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（埼玉大）《共催》
10/11（金）	公開講演会「大豆のはたらきin福岡一食を通して健やかな人生をー」（福岡）《協賛》
10/14～18（月～金）	第18回国際窒素固定会議（18th International Congress on Nitrogen Fixation）（宮崎）《共催》
10/17～19（木～土）	第43回複素環化学討論会（岐阜）《共催》
10/23～25（水～金）	アグロ・イノベーション2013（東京）《協賛》
10/25（金）	酵素工学会第70回講演会（東大）
10/25（金）	日本農芸化学会東北支部第14回若手の会（岩手）
10/26（土）	日本農芸化学会東北支部第148回大会（岩手大）
10/28～29（月～火）	The 2nd International Symposium on Chemical Biology of natural products: target ID and regulation of Bioactivity（横浜）《協賛》
10/31～11/2（木～土）	第49回熱測定討論会（千葉工大）《共催》
11/1（金）	第7回多糖の未来フォーラム（阪府大）《共催》
11/2（土）	第4回機能油脂懇話会（明大）
11/2～4（土～月）	第4回 Modern Solid Phase Peptide Synthesis & its Applications Symposium（SPPS 2013）（神戸）《協賛》
11/6～8（水～金）	第4回アジア太平洋国際ペプチドシンポジウム、第50回ペプチド討論会（大阪）《共催》
11/6～8（水～金）	第5回国際O-CHA学術会議（静岡）《後援》
11/7～8（木～金）	第36回情報化学討論会（筑波大）《共催》
11/7～8（木～金）	第41回構造活性相関シンポジウム（関西学院大）《協賛》
11/7～8（木～金）	第12回食品レオロジー講習会ー初心者のための実習と基礎ー（東大）《協賛》
11/8（金）	第54回機器分析講習会（第3コース：食品を中心にした異物分析）（東京）《協賛》
11/12～13（火～水）	第58回リグニン討論会（高松）《共催》
11/12～14（火～木）	第52回NMR討論会（金沢）《共催》
11/14～16（木～土）	第54回高圧討論会（新潟）《協賛》
11/15～16（金～土）	第46回酸化反応討論会（筑波大）《共催》
11/16～17（土～日）	第19回ヒ素シンポジウム（九大）《後援》
11/16～17（土～日）	2013年日本化学会中国四国支部大会（広島大）
11/20～21（水～木）	第13回糸状菌分子生物学コンファレンス（つくば）
11/27（水）	第30回医用高分子研究会講座ー再生医療を支える高分子材料技術ー（東大）《協賛》
12/3～5（火～木）	第40回炭素材料学会年会（京都）《協賛》
12/5～6（木～金）	平成25年度室内環境学会学術大会（佐世保）《後援》
12/5～7（木～土）	第40回有機典型元素化学討論会（近畿大）《共催》
2014年（平成26年）	
1/24～25（金～土）	第25回ビタミンE研究会（鳥取）
3/27～30（木～日）	日本農芸化学会2014年度（東京）大会

会員の拡充にぜひともご協力を!!

本会では、（一般会員：会費年額10,000円、シニア会員：会費年額8,000円、教育会員：会費年額6,000円、学生会員：会費年額6,000円）および（維持会員：会費年額1口60,000円、団体会員：会費年間30,000円）の拡充を行っております。農芸化学に関係のある大学、官公庁、民間会社などの研究者、関係業務に従事して

いる方などがお知り合いにおられましたら、ぜひ本会への入会をご勧誘下さるようお願いいたします。入会の手続きなどの詳細につきましては、下記ホームページへアクセスして下さい。

◇URL <http://www.jsbba.or.jp/>

会費・購読料の納入にご協力下さい

本会会費・購読料のご納入につきまして

は、その年度の2月末に、納入のための振替用紙をお送りいたしております。会員の皆様は、この振替用紙を用い、会費・購読料をご納入下さいますようお願いいたします。

会費の未納は、学会誌などの送付・大会講演発表などに影響いたしますので、何卒速やかにご納入下さいますようお願い申し上げます。

農芸化学会 からの **お知らせ**

2014年度（平成26年度）大会のお知らせ

日本農芸化学会2014年度（平成26年度）大会を下記の予定で開催いたします。

会 期：2014年（平成26年）3月27日（木）～30日（日）

会 場：

【授賞式／受賞講演等】明治大学リパティータワー（〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1, http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/campus.html）

【懇親会】京王プラザホテル（〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1, <http://www.keioplaza.co.jp/>）

【一般講演・展示会・シンポジウム・ラ

ンチョンセミナー・ジュニア農芸化学会等】明治大学生田キャンパス（〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1, http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/ikuta/campus.html）

授賞式、受賞講演等、懇親会：2014年3月27日（木）

一般講演・展示会・シンポジウム・ランチョンセミナー・ジュニア農芸化学会等：2014年3月28日（金）～30日（日）

一般講演申込（要旨投稿）WEB受付期間：2013年11月1日（金）～2013年12月6日（金）正午（予定）

大会参加申込WEB受付期間：2013年12

月6日（金）午後～2014年1月17日（金）（但 事前料金）（予定）

当日参加申込WEB受付期間：2014年3月3日（月）～2014年3月30日（日）（但 当日料金）（予定）

プログラム集（冊子体発行）：2014年2月25日（火）

講演要旨集（WEB上での公開）：2014年3月5日（水）

大会実行委員会：〔委員長〕正木春彦（東京大学大学院農学生命科学研究科）〔副委員長〕星野貴行，中島春紫〔総務〕渡邊秀典

本会推薦による賞・助成金情報

適任者がおられましたら奮ってご応募ください。本会授賞選考委員会で選考し、推薦いたします。

賞・助成の詳細につきましては、当募集団体ホームページをご覧ください。

また、本会ホームページの賞・助成金情報（<http://www.jsbba.or.jp/info/grant/>）もご覧ください。

【賞】

○第30回井上學術賞（8/20締切）

対 象：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた研究者（ただし、2013年9月20日現在50歳未満の者）

褒 賞：賞状、金メダル、副賞200万円

○平成25年度島津賞（8/30締切）

対 象：科学技術、主として科学計測およびその周辺の領域における基礎的な研究において、近年著しい成果をあげた功労者

褒 賞：賞状、賞牌、副賞300万円

○第45回内藤記念學術振興賞（8/30締切）

対 象：人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究において、独創的なテーマに取り組み、進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者

褒 賞：金メダル、副賞1,000万円

○第3回三島海雲學術賞（8/30締切）

対 象：食の科学に関する研究

候補者資格：国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により独創的で発展性のある顕著な業績を挙げている45歳未満（平成26年4月1日現在）の日本在住の研究者（国籍問わず）および海外在住の日本人研究者

褒 賞：副賞200万円

○第22回木原記念財団學術賞（8/30締切）

対 象：最近において生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている国内の研究者で、50歳以下（平成25年9月30日現在）の方

贈 呈：賞状、賞金200万円

○第54回東レ科学技術賞（9/10締切）

対 象：農芸化学の分野で（1）学術上の業績が顕著な方（2）学術上重要な発見をした方（3）効果が大きい重要な発明をした方（4）技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献した方

贈 呈：賞状、金メダルおよび賞金500万円

【助成】

○第45回内藤海外学者招聘助成金（8/30締切）

対 象：人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究を行う外国の研究者を招聘する際の費用を補助する。

助成額：20～80万円

○第54回東レ科学技術研究助成（9/10締切）

対 象：農芸化学の分野で、国内の研究機関において、自らのアイディアで萌芽的研究に従事しており、かつ今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献することが大きいと考えられる若手研究者（原則として推薦時45歳以下）。本助成が重要な研究費と位置づけられ、これにより申請研究が格段に進展すると期待されることが要件。

助成額：1件3,000万円程度まで

《問い合わせ・応募先》 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル内 日本農芸化学会事務局授賞係
Tel. 03-3811-8789, Fax. 03-3815-1920
E-mail: shomu@jsbba.or.jp

化学と生物 Vol. 51, No. 8, 2013



支部だより

平成25年度日本農芸化学会 北海道支部夏期シンポジウム 「北の作物をはぐくむ」

日時：平成25年8月10日（土）13:30～
会場：旭川国際会議場 大会議室（旭川市
神楽3条7丁目）
参加費：無料，一般公開
後援：北海道新聞社
問合せ先：帯広畜産大学 食品科学研究部
門 折笠善丈
Tel. 0155-49-5542
E-mail: yosori@obihiro.ac.jp
詳細は支部ホームページ（[http://www.
agr.hokudai.ac.jp/jsbba/toppupeji.html](http://www.agr.hokudai.ac.jp/jsbba/toppupeji.html)）
をご覧ください。

2013年度（平成25年度） 日本農芸化学会 東北支部奨励賞および 東北支部若手奨励賞候補者の募集

[東北支部奨励賞]
応募資格：申請時に3年以上継続して日本
農芸化学会会員であること，および本年4月
2日現在で満45歳以下であり，主たる研究
の場が東北支部内であること。
[東北支部若手奨励賞]
応募資格：申請時に1年以上継続して日本
農芸化学会会員であること，本年4月2日現
在で満30歳以下であり，東北支部内の大
学・大学院・高等専門学校等に学生，研究
生，博士研究員，あるいは任期付教員とし
て在籍していること。応募書類，提出方法
については支部ホームページ（[http://
www.agri.tohoku.ac.jp/jsbba-tohoku/
index.html](http://www.agri.tohoku.ac.jp/jsbba-tohoku/index.html)）をご覧ください。
締切：2013年8月30日（金）
提出先：〒981-8555 仙台市青葉区堤通南
宮町1-1 東北大学大学院農学研究科分子
生物学分野 日本農芸化学会東北支部長
西森克彦

日本農芸化学会関西・中四国・ 西日本支部および 日本ビタミン学会近畿・ 中国四国・九州沖縄地区合同大会 (2013年度合同広島大会)

日時：2013年9月5日（木）13:00～17:30，
9月6日（金）9:00～17:00
会場：県立広島大学広島キャンパス教育研
究棟2（広島市南区宇品東1-1-71）
※広島駅から市内電車5番 広島港（宇品）
行きにて「県病院前」下車
プログラム：第1日目・特別講演（13:00
～15:00）：2013年度日本農芸化学会賞受
賞講演 重岡 成（近畿大学農学部），伏木
亨（京都大学大学院農学研究科）；2013年
度日本農芸化学会功績賞受賞講演 久原
哲（九州大学大学院農学研究科），西田律夫
（京都大学大学院農学研究科）・シンポジウ
ム（15:10～17:30）：1. 食品成分の機能性
評価と応用研究：食による健康・長寿を目
指して「カロテノイド研究の推移と現状」
富田純史（九州共立大・スポーツ），「乳酸
菌・ビフィズス菌の腸炎抑制作用」田辺創
一（広島大院・生物圏），「体脂肪を低減さ
せるポリフェノール高含有飲料の開発」中
村淳一（サントリーグローバルイノベーション
センター（株）），「地域特産食品の高
付加価値化を実現する機能性成分の分析マ
ニュアルの標準化について」廣津孝弘（産
総研・四国）；2. 藻類，微生物によるエネ
ルギー・食糧生産と魚介資源の安全確保：
諸課題と未来への展望「高オイル産生海洋
珪藻 *Fistulifera* 属を利用したエネルギー生
産の展望」松本光史（電源開発・若松研），
「資源管理型漁業のための動物性初期餌料
生物の培養生産の現状と光利用による生産
効率化の可能性」田中賢二（近畿大・産業
理工），「緑藻イカダモの野外大量培養と食
糧油脂・バイオディーゼル燃料生産」西尾
幸郎（四国大・短大），「海洋酵母による水
圏バイオマスからのエタノール生産」岡井
公彦（東大院・農学生命）・懇親会（18:30
～20:30）ANAクラウンプラザホテル（広
島市中区中町7-20）
第2日目・一般講演（9:00～17:00）

参加費：一般 1,000円，学生 無料（事前の
参加申込不要）
懇親会費：一般 8,000円，学生 4,000円（当
日参加料金）
連絡先：2013年度合同広島大会実行委員
会 広島県庄原市七塚町562
県立広島大学（実行委員長：武藤徳男
E-mail: muto@pu-hiroshima.ac.jp）
本合同大会についての詳細は，日本農芸化
学会中四国支部ホームページ（[http://
jsbba-cs.jp](http://jsbba-cs.jp)）の「合同広島大会2013」案内
ページをご覧ください。

日本農芸化学会中四国支部 第23回市民フォーラム 「食と農を科学する—日本発の 農芸化学・ビタミン学研究—」

日時：2013年9月7日（土）10:00～12:30
場所：中国新聞ホール（広島市中区土橋町
7-1 Tel. 082-236-2455）
協賛：日本ビタミン学会
参加費：無料（参加申込不要）
講演：「和食の要となるダシのおいしさの
科学とその応用」伏木 亨（京大院・農），
「日本のビタミン研究と健康へのかかわり」
福澤健治（安田女子大・薬），「きのこ，そ
の驚異のパワーとは」森永 力（県立広島
大・生命環境）
詳細は中四国支部ホームページ（[http://
jsbba-cs.jp](http://jsbba-cs.jp)）をご覧ください。

日本農芸化学会東北支部 第14回若手の会

開催日時：平成25年10月25日（金）
場所：繋温泉・清温荘
世話人：宮崎雅雄，山田美和，伊藤芳明
詳細は，決定次第支部ホームページ上でご
案内いたします。

日本農芸化学会東北支部 第148回大会

開催日時：平成25年10月26日（土）
場所：岩手大学農学部
世話人：磯部公安（岩手大学農学部）
詳細は，決定次第支部ホームページ上でご
案内いたします。

日本農芸化学会2013年度大会を顧みて

日本農芸化学会2013年度大会（実行委員長 宮澤陽夫 東北大学農学研究科教授）は、2013年3月24（日）から28（木）までの5日間、江陽グランドホテルおよび東北大学川内北キャンパスを主会場として開催された。2011年3月11日に発生した東日本大震災の影響で、2011年度大会の口頭発表が中止となり、関係各位のご尽力により2012年度大会を京都で開催し、仙台大会は1年延期して2013年度大会としての開催となった。この1年の延期の間に、大会会場となった東北大学川内北キャンパスを含む仙台市街の復旧が進み、震災復興関係者による宿泊施設の混雑も一段落したことで、ようやく大会開催を迎えることができた。大会期間中は、3月下旬としては若干寒くはあったが雪も降ることなく、大会参加者総数4,822名（登録参加者4,368名、招待者454名）、ジュニア農芸化学会招待者271名（被災地理科教育支援校8校の43名を含む）と非常に多数の方々にご参加いただいた。

大会初日の3月24日（日）は、13時より電力ホールにて

2013年度の学会賞の授賞式が行われ、引き続いて学会賞（2件）、功績賞（2件）、技術賞（2件）、奨励賞（10件）の各受賞者による講演が行われた。大会初日が日曜日にもかかわらず収容人員1,000名の講演会場はほぼ満席となった。その後18時30分より江陽グランドホテルの「鳳凰の間」において懇親会が開催された。本会の開催にあたり、日本酒、ビール、ワインを多数ご寄贈いただいた関係各社に厚く御礼を申し上げる。開会式にあたり鏡割りが行われ、東北各地の日本酒を集めたコーナー、宮城・東北の郷土料理コーナーなども設置され、会場は625名の参加者の懇親の活気に満ちていた。

25日（月）からは東北大学川内北キャンパスを会場として、一般講演発表（2,197題）が行われた。事前審査後、座長による口頭発表の確認を経て一般講演演題のうち26題にトピックス賞が授与された。期間中、シンポジウム（一般公開の震災特別シンポジウム2セッションを含む公募28セッション、175講演）、実行委員会企画ランチョンシンポ



授賞式の様子



懇親会での鏡割り



懇親会での宮城大学の学生による雀踊り



一般講演会場の東北大学川内北キャンパス

ジウム3セッションとJABEEランチョンシンポジウム（4講演）、産学官学術交流委員会フォーラム（招待講演2題、報告発表6題、ポスター発表14題）、ランチョンセミナー（15社、17セッション）、展示（107件）、一般ミキサー、展示企業ミキサーが開催された。本会の開催にあたり、28社（組合も含む）より、多くの飲料のご寄附を頂戴した。期間中、休憩室、各種ミキサー、ジュニア農芸化学会交流会、懇親会で参加者に提供され、議論の合間の憩い、懇親・交流に大いに役立った。この場を借りて、ご支援いただいた各社の皆様に厚く御礼を申し上げる。27日の夕方からは、農芸化学会の若手90名が、仙台の奥座敷の秋保温泉にある秋保リゾートホテルクレセントに移動し、Frontiersシンポジウムが開催された。8題の招待講演を中心に、夜遅くまで大いに討論・交流が行われた。翌日28日には、今回の特別企画エクスカッションとして津波被災沿岸部の閑上（ゆりあげ）・荒浜地区および仮設住宅の視察を行った。参加者にとっては、改めて被災の甚大さを実感するとともに、農芸化学を通じた復興への貢献を考える機会となったようである。

実行委員会企画の「震災特別シンポジウム—東日本大震災からの復旧・復興に向けた農芸化学および関連分野の取り組み」は、27日（水）の午前に第1部（4題）、午後に第2部（6題）の二部制として一般公開で開催された。被災地で開催される大会として、震災後2年目の地域の現状を報告し、農芸化学—環境バイオテクノロジーが震災復興に果たす役割について議論を深めた。高校生の研究発表会「ジュニア農芸化学会」では、全国50の高校から271名の発表者を会場の川内北キャンパス体育館に迎えて80題のポスターが展示された。高校生の熱心な発表と大会参加者との活発な質疑応答に会場も大いに賑わった。投票の結果、金賞1件、銀賞と銅賞各2件が選ばれた。今回の大会が被災地仙台での開催ということで、本学会の被災地理科教育支援事業（「復興応援キリン絆プロジェクト」後援）の支援で、岩手・宮城・福島被災3県から9校（生徒35名、引率教員6名）をジュニア農芸化学会に招待した。招聘校による12題の発表があり、発表終了後には支援目録の贈呈式も行われた（発表校9校に加え、目録贈呈式のみ参加7校）。被災の困難さを乗り越えて発表する招聘校の生徒達の姿



一般講演会場の様子



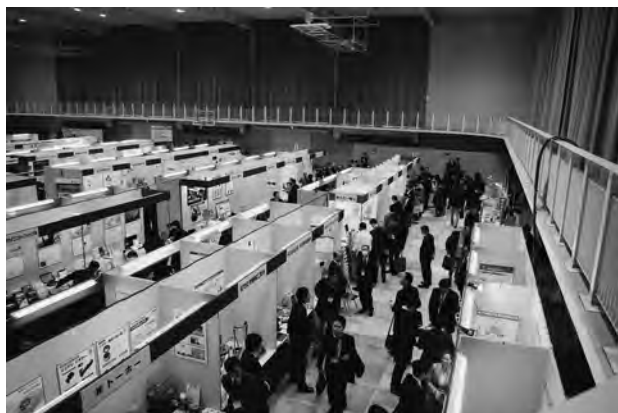
ジュニア農芸化学会の会場



被災地理科教育支援校への目録贈呈式



産学官学術委員会フォーラムのポスター発表



展示会場の様子



フロンティアシンポジウムでの被災地視察

に、参加した他地域の高校生や学会員が励まされ、参加者全員が被災地の現状を理解し、継続支援の重要性を理解する機会となった。

今年度の大会は、公益法人化して2年目の大会であり、大きな変更点としては大会受付の電子化が行われた。事前登録によるクレジットカード決済を奨励することで、当日受付の軽減を図った。一部の招待者の受付の際に、例外的な取り扱いをする必要があり時間を要するケースもあって、御意見をいただいた。今回の経験をふまえて、次回大会までには電子化受付方式も成熟するものと思われる。一般講演の発表は、京都大会ではPC-プロジェクター方式であったが、今回の仙台大会では会場スタッフ人数の制約から書画カメラを採用した。会場に設置された書画カメラの性能が優れていたことから、発表は特に支障なく行われ

た。東北支部では学会員が広域に散らばっていることから、比較的限られた人数で大会準備をする必要があった。今回の大会運営は、公益法人化後の大会において、学会本部と実行委員会が緊密に連携して地方で開催する大会のあり方の先例になるものと思われる。大会参加者の皆様方からは大会会場・運営に関しておおむね好評をいただき、実行委員一同、安堵した次第である。

最後にこの場を借りて、本大会を開催するにあたりご支援・ご協力を賜りました参加者の皆様方、多くの企業、大学、学会本部事務局の方々に厚く御礼を申し上げる次第です。

2013年度大会実行委員会総務
阿部敬悦、藤井智幸、仲川清隆、都築 毅

会員の皆様へお知らせとお願い個人の賛助金（任意）に関する内規の制定と適用について

（公益社団）日本農芸化学会理事会

日本農芸化学会の財政は近年赤字基調となり、2001年度は約875万円（正会員1人当たり800円）、2002年度は約1,500万円（正会員1人当たり1,470円）の赤字を出しております。

このため2003年度第47回通常総会に会費値上げを提案いたしました。健全財政にするためには、会費収入、広告収入など収入増を図る努力とともに欧米の学会でみられるような善意の寄付金の受入れも大変重要です。

そこで、個人の賛助金に関する下記の内規を、2002年10月2日の理事会と全国評議員会の議を経て制定いたし

ました。2003年度から適用されます。

会員の皆様におかれましては、学会は会員が支えるものであるという原点にたちかえり、本年度も引き続きご協力下さいますようお願い申し上げます。

個人の賛助金（任意）に関する内規

第275回（2002年10月2日）理事会承認
第109回（2002年10月2日）全国評議員会承認

個人の賛助金（任意）に関し、以下のよう
に定める。

1. 対象はご協力いただける正会員（一般会員・名誉会員・有功会員・シニア会員・教育会員）とする。

2. 賛助金は一口5,000円とし、一口以上を申し受ける。
 3. いただいた賛助金は、定款第54条（寄付金の受領）の規定に基づき処理する。
 4. この内規は2003年度（平成15年度）から適用する。
 5. お振込み先：振替口座東京00100-5-68187 社団法人日本農芸化学会
- ※郵便局備え付けの振替用紙をご利用いただいても結構です。

※通信欄にかならず「賛助金」とご記入下さい。

公益財団法人農芸化学研究奨励会からのお知らせ

毎年本誌で公募掲載している各種助成について、助成金受領者報告を、当財団ホームページ (<http://www.jsbba.or.jp/acrf/>) に掲載しております。

■第39回（平成23年度）研究奨励金受領者

5名（所属および職位は交付決定当時のもの）

- | | |
|--|--|
| (1-304)「植物細胞壁成分キシランの生合成の分子機構」石
水 毅（大阪大院理・講師） | (1-307)「精密分子設計に基づく糖鎖プロセッシング酵素の
蛍光プローブ開発と生細胞マルチカラーイメージング」
袴田 航（日大生物生化・講師） |
| (1-305)「フォスファチジン酸を利用した植物の耐病性向
上に関する研究」木場章範（高知大教育・准教授） | (1-308)「機能未知タンパク質PRMT10の前立腺組織にお
ける生理機能の解析」原田直樹（阪府大生環境・助教） |
| (1-306)「複合型テルペンの環化酵素を利用した非天然型
化合物の創製」仲野千秋（新潟大院自然・助教） | |

■第61回（平成23年度）国際会議出席費補助金受領者

6名（所属および職位は交付決定当時のもの）

- | | |
|---|--|
| (2-367)「第9回極限環境微生物国際会議（9月10日～13日、
セビリヤ、スペイン）」里村武範（福井大院工・講師）
発表テーマ：Functional and structural characterization
of Dye-liked L-proline dehydratase from hyperther-
mophiles. | ～25日、ニース、フランス）」藤原奈央子（京大院農・教
務補佐員）
発表テーマ：ヒト核内におけるRNA品質管理複合体の
同定 |
| (2-368)「バイオテクノロジー国際シンポジウム2012（8月
21日～25日、テグ、韓国）」畑中唯史（岡山県農水総セ・
GL）
発表テーマ：Production of dipeptidyl peptidase IV
inhibitory peptides from defatted rice bran. | (2-370)「第17回欧州生体エネルギー会議（9月15日～20
日、フライブルク、ドイツ）」村井正俊（京大院農・助
教）
発表テーマ：光親和性標識法によるミトコンドリア
NADH—ユビキノン酸化還元酵素（複合体-I）の阻害剤
結合部位の解析 |
| (2-369)「欧州分子生物学機構ミーティング2012（9月22日 | |

メールアドレス登録のお願い

本会では、メーリングシステムとWEBによる会員名簿の整備を進めております。このシステムのいっそうの充実を図るため、会員の皆様方にはメールアドレスのご登録をお願いしたいと存じます。

本会庶務係 (shomu@jsbba.or.jp) まで、氏名、登録用メールア

ドレスをお送り下さいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

会員情報システムを通じて登録、閲覧される情報はSSL暗号化通信によって外部からの盗聴を防いでおります。